

第92期
中間報告書

平成19年4月1日から平成19年9月30日まで



乾汽船株式会社



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、平成19年度（2007年度）中間期の業績につきましてご報告申し上げます。

乾汽船株式会社 代表取締役社長

乾 新悟

経営理念

国際海上輸送を通して人々の生活向上に貢献します。

基本経営方針

1. 様々なニーズに柔軟に対応し顧客に信頼される船舶運航業者を目指す。
2. 企業モラルの向上とコンプライアンスを尊重する企業風土を醸成する。
3. 透明性及び効率性の高い経営で企業価値の向上を図る。
4. 安全運航の徹底及び海洋・地球環境の保全に努める。

環境方針

乾汽船株式会社は、海上輸送サービス業として船舶運航並びに船舶管理において必要となる動力エネルギーの消費及び事業活動から生じる排出物・廃棄物が、限りある資源と地球、特に海洋環境への著しい負荷となること、及び海難事故の防止、或いは運航上の誤りによる海洋汚染の防止の重要性を正しく自覚し、環境保全を恒久的な課題に掲げる。



当社は、平成18年6月26日、環境マネジメントシステムについての国際規格である「ISO14001」の認証を取得いたしました。ISO14001認証取得により、環境管理の面において国際的な信頼が得られるものと期待しており、今後も環境マネジメントシステムを中心として、地球環境の保全に配慮した活動を継続的に行ってまいります。

■ 中間期の概況

当中間期における世界経済は、全体的には緩やかな拡大傾向を示しており、世界の荷動きも順調に拡大いたしました。

特に海上貨物輸送は中国をはじめとした新興国の経済成長を受けて旺盛な船腹需要の拡大が続き、当社の主力船型である中小型撤積船の荷動きも活発化しております。

このような情勢のもと、当中間期の連結業績は売上高107億13百万円（前年同期比32.5%増）、営業利益41億18百万円（同214.7%増）、経常利益38億45百万円（同216.5%増）、中間純利益36億85百万円（同366.7%増）となり、当社中間決算として過去最高収益並びに利益を達成いたしました。

上記好業績は、当社が主力とする不定期船マーケットの用船及び運賃市況が予想以上に上昇が続き、営業利益の大幅な増益が大きな要因となっております。

期初前提では、当社の主力船隊であるスモールハンディ型船のスポットタイムチャーター（単発の期間用船）を平均日額約18,000ドルと見込んでおりましたが、当中間期末においては日額30,000ドル近くまで高騰し、前年同期の2倍を超える水準となりました。

また、主要輸送貨物である農水省向け北米積み、日本揚げ小麦運賃は、期初のトン当たり70ドルから当中間期末には100ドルに迫る勢いで高騰いたしました。

このような状況の中、当社は従来より強みを発揮

している穀物・木材輸送に加え、より多角的／効率的な営業展開を図っており、石炭・セメントその他の南北航路等の三国間輸送へも積極的に取り組み、最適貨物の積取りや数量輸送契約（COA）等の組み合わせにより合理的な効率配船に努めるなど、安定性・収益性を重視した営業活動を展開し、大きく業績に寄与いたしました。

一方、原油価格は、歴史的な高値圏にあり、当中間期末には80ドルを超える価格（NY先物）をつけ、更に上昇傾向にあります。当社グループの燃料油価格は、当上半期平均トン当たり355ドル（前年同期347ドル）と高値となり、運航収支を圧迫する要因となりました。

為替については、当上半期平均119.78円（前年同期115.87円）と円安で推移し、運航収支の改善に寄与いたしました。

■ 社債発行

当社は、本年8月に転換価額修正条項付新株予約権付社債（総額30億円）を発行いたしました。

これは、好調な海運市況に対応するべく、スモールハンディ型船を中心とした当社船隊の将来的な整備・拡大に備えると同時に安定的な財務基盤を確立することを目的といたしました。

収益性の向上や業容の拡大により、長期的な株主価値の向上にも資すると考えております。本新株予約権付社債は、同月中に全額の行使が完了し、その一部を既に船舶購入の調達資金として充当しております。

■ 船隊整備

当社は、スモールハンディ型船を中心とした競争力ある船隊整備に取り組んでおります。当中間期におきましては、当社海外連結子会社において、この7月に32,000重量トンの社船（船令10年）1隻を売却、また9月には29,000重量トンの中古撤積船（船令5年）1隻を購入するなど船舶資産を刷新し、船隊整備計画に則った競争力の強化を図っております。更に、この10月には当社では初めての大型船となります56,000重量トン（スーパーハンディマックス級）の新造船（船名：NOBLE HAWK）の長期用船が投入され、運航及び事業規模の拡大に寄与いたします。



平成19年10月新造船、NOBLE HAWK

■ 通期の見通し

当下期につきましては、燃料油価格の高騰や為替変動などの懸念要素はあるものの、不定期船事業を

取り巻く環境は、旺盛な荷動きと逼迫した船腹需給を背景に市況も更に騰勢を強めており、高値圏で推移することが見込まれております。

平成19年度通期の連結業績につきましては、売上高232億円（前期比33.0%増）、営業利益100億円（同158.3%増）、経常利益95億円（同156.7%増）、当期純利益70億円（同213.7%増）と予想しており、昨年度に引き続き創業以来の最高収益及び利益を達成できる見込みです。

売上高 232億円

経常利益 95億円

当期純利益 70億円

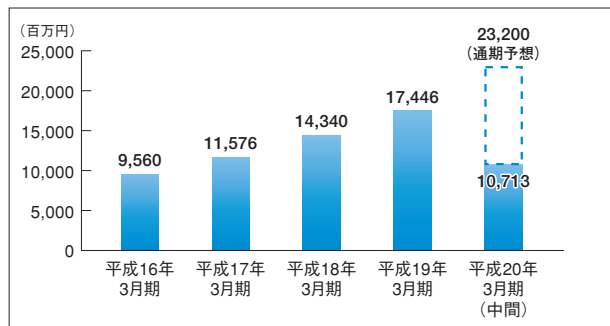
なお、当下期の業績予想における前提は、為替を1ドル115円、燃料油価格をトン当たり450ドルとして策定しております。

■ 配当

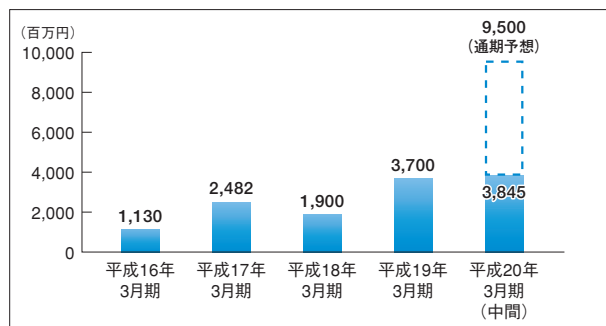
当社は、企業価値の向上を念頭に、将来の事業展開のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を基本とし、業績に連動した利益を総合的に勘案して株主の皆様へに配分することを基本方針としております。

通期の配当予想といたしましては、上記業績の概況並びに通期の見通しを踏まえまして、年間配当30円（期末）を予定しております。なお、当社は中間配当につきましては行っておりません。

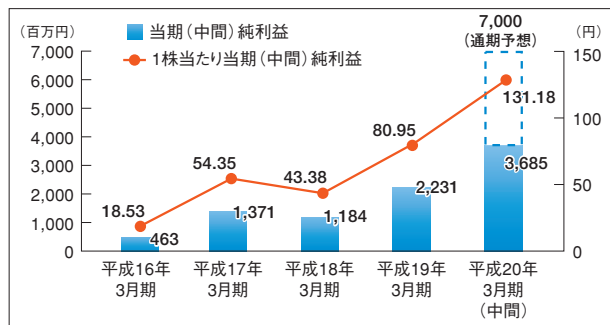
売上高



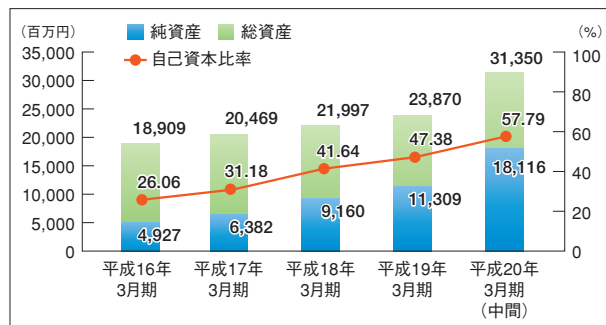
経常利益



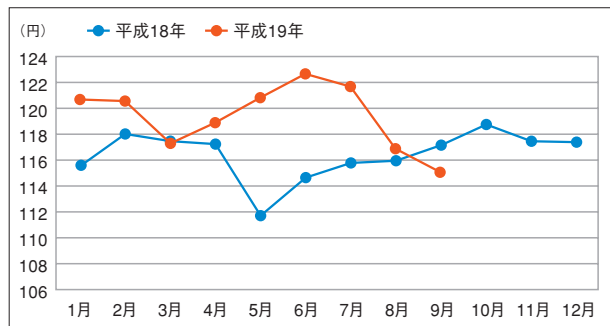
当期 (中間) 純利益 / 1株当たり当期 (中間) 純利益



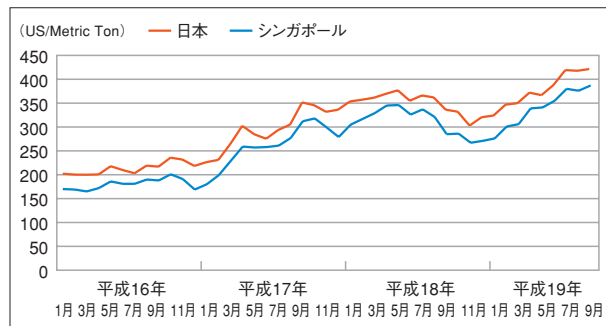
純資産 / 総資産 / 自己資本比率



対米ドル円換算率推移



燃料油価格推移



※対米ドル円換算率 (公表相場TTMレート)

※日本、シンガポールは、当社燃料油主要補油地であります。
 ※燃料油価格推移 (出典: "Drewry Shipping Insight" etc)

連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円/端数切捨て)

科目	期別	前中間期 (平成18年 9月30日現在)	当中間期 (平成19年 9月30日現在)	比較増減	科目	期別	前中間期 (平成18年 9月30日現在)	当中間期 (平成19年 9月30日現在)	比較増減
(資産の部)					(負債の部)				
流動資産		4,131	10,215	6,083	流動負債		5,132	5,437	304
現金・預金		2,753	8,779	6,025	海運業未払金		973	1,148	174
海運業未収金		254	299	45	短期借入金		2,976	1,948	△1,027
貯蔵品		359	450	91	未払法人税等		705	1,753	1,048
繰延及び前払費用		243	159	△84	賞与引当金		19	21	1
その他流動資産		522	526	4	その他流動負債		458	565	106
貸倒引当金		△0	△0	△0	固定負債		7,971	7,797	△174
固定資産		18,375	21,135	2,759	長期借入金		6,020	4,620	△1,400
有形固定資産		14,714	13,910	△804	退職給付引当金		88	95	6
船舶		14,494	13,386	△1,108	特別修繕引当金		135	72	△63
その他		220	524	304	その他固定負債		1,726	3,008	1,281
無形固定資産		13	11	△1	負債合計		13,104	13,234	129
投資その他の資産		3,647	7,212	3,565	(純資産の部)				
投資有価証券		3,493	6,830	3,336	株主資本		7,719	15,349	7,630
その他長期資産		181	409	228	資本金		1,851	3,351	1,499
貸倒引当金		△27	△27	—	資本剰余金		598	2,098	1,499
資産合計		22,507	31,350	8,843	利益剰余金		5,274	9,905	4,630
					自己株式		△5	△5	△0
					評価・換算差額等		1,683	2,766	1,083
					その他有価証券評価差額金		872	1,908	1,036
					繰延ヘッジ損益		△47	△1	46
					為替換算調整勘定		859	859	—
					純資産合計		9,403	18,116	8,713
					負債・純資産合計		22,507	31,350	8,843

Point 1 資産

資産は、前中間期末比88億43百万円増加し、313億50百万円となりました。これは主に、現金・預金の増加などによるものです。

Point 2 負債

負債は、前中間期末比1億29百万円増加し、132億34百万円となりました。これは主に、短期・長期借入金が減少しましたが、一方で未払法人税等などが増加したためです。

Point 3 純資産

純資産は、新株発行に伴う資本金及び資本剰余金の増加や、利益剰余金の増加などにより、前中間期末比87億13百万円増加の181億16百万円となりました。

■ 中間連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円/端数切捨て)

科目	期別	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	比較増減
海運業収益		8,077	10,702	2,625
海運業費用		6,376	6,185	△191
海運業利益		1,700	4,517	2,816
その他事業収益		7	10	3
その他事業費用		4	9	4
その他事業利益		2	1	△0
営業総利益		1,702	4,519	2,816
一般管理費		394	401	6
Point 4 営業利益		1,308	4,118	2,809
営業外収益		74	123	49
営業外費用		168	396	228
経常利益		1,214	3,845	2,630
Point 5 特別利益		81	2,344	2,262
特別損失		12	31	18
税金等調整前中間純利益		1,284	6,158	4,874
法人税、住民税及び事業税		699	1,751	1,052
法人税等調整額		△204	722	926
Point 6 中間純利益		789	3,685	2,895

Point 4 営業利益

営業利益は、海運市況の高騰による海運業収益の大幅な増収により、前年同期比28億9百万円増加の41億18百万円となりました。

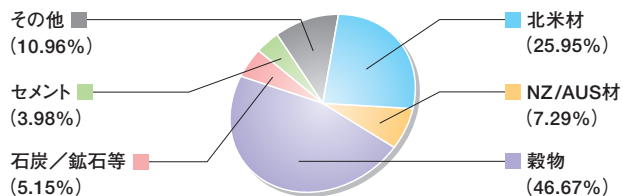
Point 5 特別利益

特別利益として、海外連結子会社所有の船舶1隻の売却に伴う売却益23億44百万円を計上いたしました。

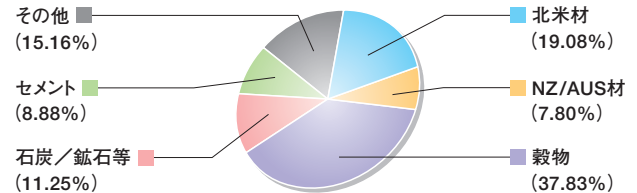
Point 6 中間純利益

中間純利益は、前年同期比28億95百万円増加の36億85百万円となり、中間決算として過去最高利益を達成いたしました。

■ 主要貨物別売上高 当中間期 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)



■ 主要貨物別輸送量 当中間期 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円/端数切捨て)

科目	期別	前中間期	当中間期	比較増減
		(平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	(平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	
Point 7 営業活動による キャッシュ・フロー		1,763	4,111	2,347
Point 8 投資活動による キャッシュ・フロー		△1,742	443	2,186
Point 9 財務活動による キャッシュ・フロー		568	1,139	571
現金及び現金同等物に 係わる換算差額		△57	△305	△248
現金及び現金同等物の 増減額		532	5,389	4,856
現金及び現金同等物 期首残高		2,220	3,389	1,169
現金及び現金同等物 中間期末残高		2,753	8,779	6,025

Point7 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により増加した資金は、前年同期比23億47百万円増の41億11百万円となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益が48億74百万円増加したためです。

Point8 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により増加した資金は、前年同期比21億86百万円増の4億43百万円となりました。これは主に、中古撤積船の取得に伴う支出などに対し、社船1隻の売却により収入が大幅に増加したためです。

Point9 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動により増加した資金は、前年同期比5億71百万円増の11億39百万円となりました。これは主に、社債発行に伴い収入が増加したものの、長期借入金の返済による支出などによる減少によるものです。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円/端数切捨て)

	株主資本					評価・換算差額等				純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成19年3月31日残高	1,851	598	6,716	△5	9,161	1,324	△35	859	2,148	11,309
中間連結会計期間中の変動額										
新株の発行	1,499	1,499			2,999					2,999
剰余金の配当			△496		△496					△496
中間純利益			3,685		3,685					3,685
自己株式の取得				△0	△0					△0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					—	584	33	—	618	618
中間連結会計期間中の変動額合計	1,499	1,499	3,188	△0	6,188	584	33	—	618	6,806
平成19年9月30日残高	3,351	2,098	9,905	△5	15,349	1,908	△1	859	2,766	18,116

■ 中間個別貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円/端数切捨て)

科目	期別	前中間期 (平成18年 9月30日現在)	当中間期 (平成19年 9月30日現在)	比較増減
(資産の部)				
流動資産		4,532	9,034	4,501
固定資産		6,376	9,862	3,485
有形固定資産		1,248	1,364	116
無形固定資産		13	11	△1
投資その他の資産		5,115	8,486	3,370
資産合計		10,908	18,896	7,987
(負債の部)				
流動負債		2,893	3,691	797
固定負債		1,088	721	△366
負債合計		3,981	4,413	431
(純資産の部)				
株主資本		6,096	12,580	6,484
評価・換算差額等		831	1,902	1,071
純資産合計		6,927	14,483	7,556
負債・純資産合計		10,908	18,896	7,987

■ 中間個別損益計算書 (要旨)

(単位：百万円/端数切捨て)

科目	期別	前中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	当中間期 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	比較増減
海運業利益		1,680	4,605	2,925
その他事業利益		2	1	△0
営業総利益		1,682	4,607	2,924
一般管理費		385	397	12
営業利益		1,297	4,210	2,912
営業外収益		78	124	45
営業外費用		64	184	119
経常利益		1,311	4,149	2,838
特別利益		81	—	△81
特別損失		—	27	27
税引前中間純利益		1,393	4,122	2,729
法人税、住民税及び事業税		699	1,751	1,052
法人税等調整額		△185	△147	38
中間純利益		879	2,517	1,637

■ 中間個別株主資本等変動計算書 (要旨)

当中間期 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：百万円/端数切捨て)

	株主資本							評価・換算差額等				純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計						
				任意積立金	繰越利益 剰余金							
平成19年3月31日残高	1,851	598	312	1,864	2,938	5,115	△5	7,559	1,317	△28	1,288	8,848
中間会計期間中の変動額												
新株の発行	1,499	1,499						2,999				2,999
剰余金の配当					△496	△496		△496				△496
中間純利益					2,517	2,517		2,517				2,517
自己株式の取得							△0	△0				△0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額 (純額)									586	27	613	613
中間会計期間中の変動額合計	1,499	1,499	—	—	2,021	2,021	△0	5,021	586	27	613	5,635
平成19年9月30日残高	3,351	2,098	312	1,864	4,960	7,136	△5	12,580	1,904	△1	1,902	14,483

会社概要

商号	乾汽船株式会社 <i>INUI STEAMSHIP CO.,LTD.</i>
本社	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町一丁目7番4号 岡本ビル
設立	昭和8年10月21日
資本金	33億5,168万2,819円
従業員数	陸上:34名 海上:7名 合計:41名

役員

代表取締役 取締役社長	乾 新悟
代表取締役 専務取締役	橋本 啓二
代表取締役 常務取締役	小南 強
常務取締役	小椋 勲
取締役	阿部 健二
常勤監査役	芦田 均
常勤監査役	西村 寛
監査役	上谷 佳宏
監査役	濱根 義和

運航船腹／建造予定船腹

(平成19年10月31日現在)

	船名	重量トン (K/T)	竣工年
社 船	乾安丸	32,115	平成 9年
	矢作丸 (石炭専用船) <small>(注) 矢作丸 (当社持分20%) は、 (株) 商船三井との共有船であります。</small>	88,835	平成 4年
	KEN SHO	23,581	平成 7年
	KEN JYO	23,583	平成 8年
	KEN ZUI	23,564	平成 8年
	KEN UN	23,638	平成 8年
	KEN KOKU	23,647	平成 8年
	KEN SAN	24,102	平成 9年
	KEN TEN	24,086	平成 9年
	KEN YU	24,115	平成11年
	KEN GOH	31,939	平成13年
	KEN RYU	31,949	平成14年
	KEN MEI	29,734	平成15年
KEN REI	31,866	平成18年	
建造予定	TBN	29,600	平成20年
	TBN	55,100	平成21年
	TBN	28,900	平成22年
	TBN	31,500	平成22年
用 船	6隻		



株式の状況

■発行可能株式総数 100,000,000株

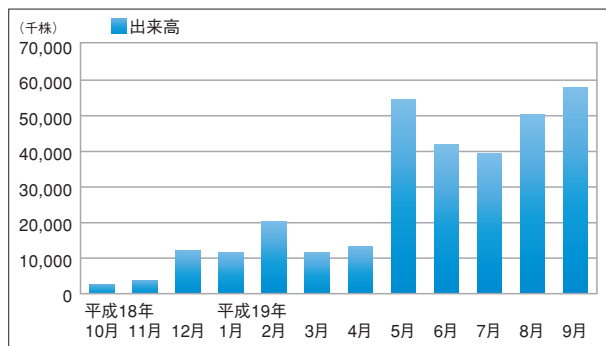
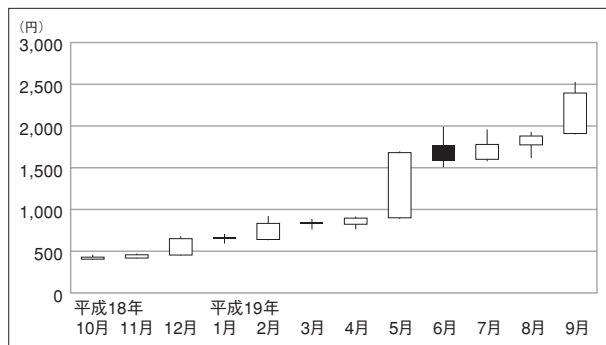
■発行済株式総数 29,429,335株

■大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社 商船三井	4,200	14.27
日本マスタートラスト 信託銀行 株式会社(信託口)	2,019	6.86
日本トラスティ・サービス 信託銀行 株式会社(信託口)	1,543	5.24
乾光海運 株式会社	1,402	4.76
東京海上日動火災保険 株式会社	1,400	4.76
乾 英文	1,249	4.24
三井住友海上火災保険 株式会社	1,150	3.91
尾道造船 株式会社	1,000	3.40
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント イー アイエスジー (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行決済事業部)	855	2.91
株式会社 三井住友銀行	520	1.77

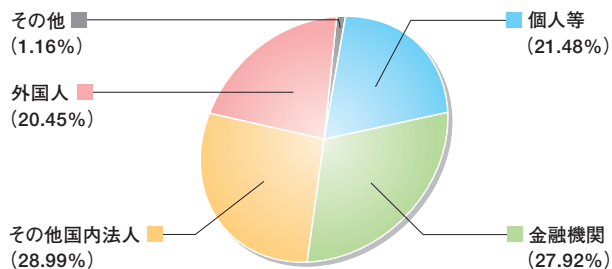
※千株未満は切り捨てております。

■株価チャート・出来高

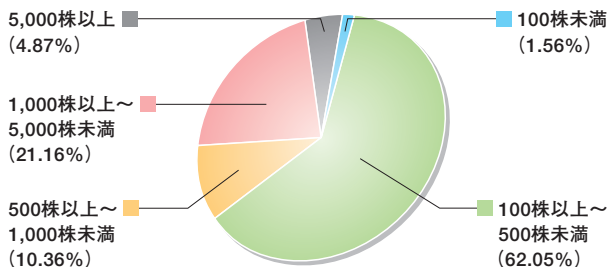


※株価チャート・出来高は、(株)東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

■所有者別株式分布状況(株式数比率)



■所有株式数別株主分布状況(株主数比率)



株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	(定時) 3月31日 (臨時) あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所 (郵便物送付先) (電話照会先)	郵便番号 168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
公告方法	電子公告によります。ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 <公告掲載ホームページアドレス> http://www.inuishop.co.jp/

(お知らせ) 住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、下記株主名簿管理人中央三井信託銀行株式会社のフリーダイヤル又はホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)
- ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

当社ホームページのご案内

当社は、インターネット上にホームページを開設しております。
皆様のアクセスをお待ちしております。

■ホームページアドレス：<http://www.inuishop.co.jp/>
会社案内、ニュースリリース、投資家情報、安全管理、
環境への取り組み、採用情報などを掲載しています。



乾汽船株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町一丁目7番4号 岡本ビル
TEL 03-3548-3270